

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第 51 週のインフルエンザの推定患者数は約 34 万人と急増、今後 2 週にわたってインフルエンザの流行は横ばい傾向となり、第 2 週以降に本格的な流行時期に入っていくことが予想される』

2018 年 12 月 25 日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

今シーズン（2018/2019 年シーズン）の 2018 年第 51 週（12 月 17～23 日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikai/index.html>）によると 341,407 であり、前週（第 50 週）の値（129,964）の約 2.6 倍の大幅な増加となりました。第 42 週以降 10 週間連続して増加が続いています（図 1）。今週（第 52 週）の月曜日（12 月 24 日）の 1 日当たりの推定患者数は 39,148 と連休中であったことを反映して平日の患者数よりも少ない数となっています。また、第 52 週からは学校等の冬期休暇の時期に入るため、推定患者数の増加は鈍化し、横ばい傾向となることが予想されます。

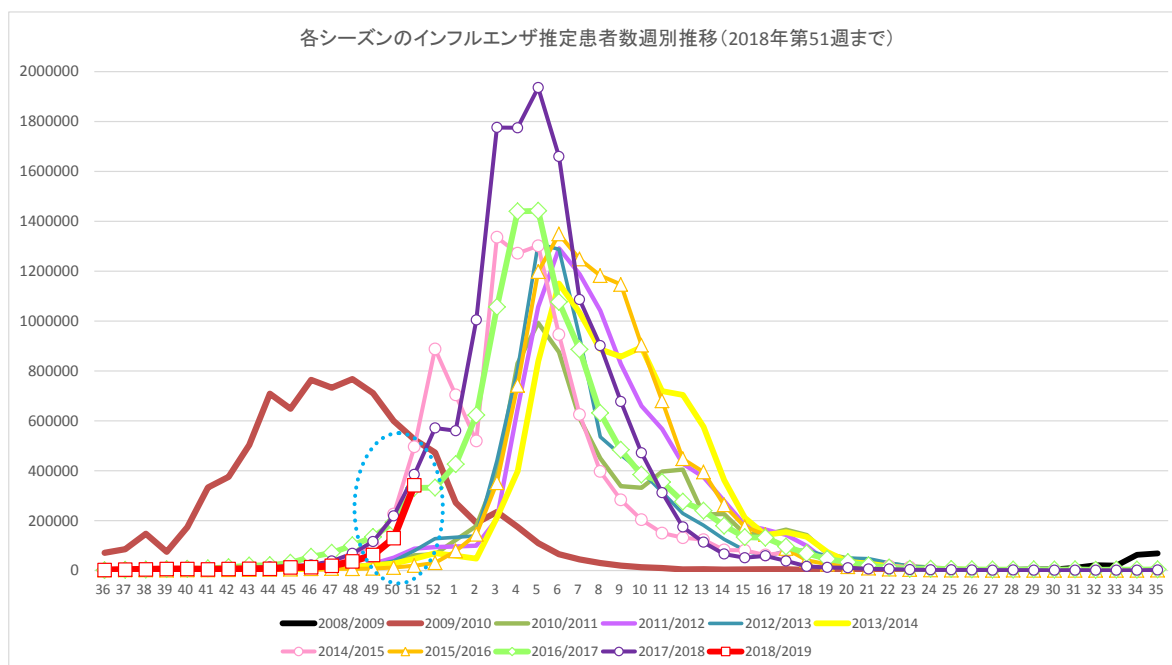


図 1. 過去 10 シーズンと今シーズン（2018/2019 年シーズン）の第 36～第 51 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（第 51 週の推定患者数：341,407）

各都道府県別の第51週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、三重県、奈良県、愛知県、岐阜県、福井県、熊本県、富山県、鹿児島県、大阪府の順となっていて新潟県を除く46都道府県で前週よりも患者数の増加が見られました。

2018年第36週から第51週までの累積の推定患者数は659,263であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は0.52%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(2.64%)、10～14歳(1.82%)、0～4歳(1.23%)、15～19歳(0.63%)、30～39歳(0.53%)、40～49歳(0.48%)、20～29歳(0.42%)の順となっていて、14歳以下が流行の中心である状態が続いています(図2)。

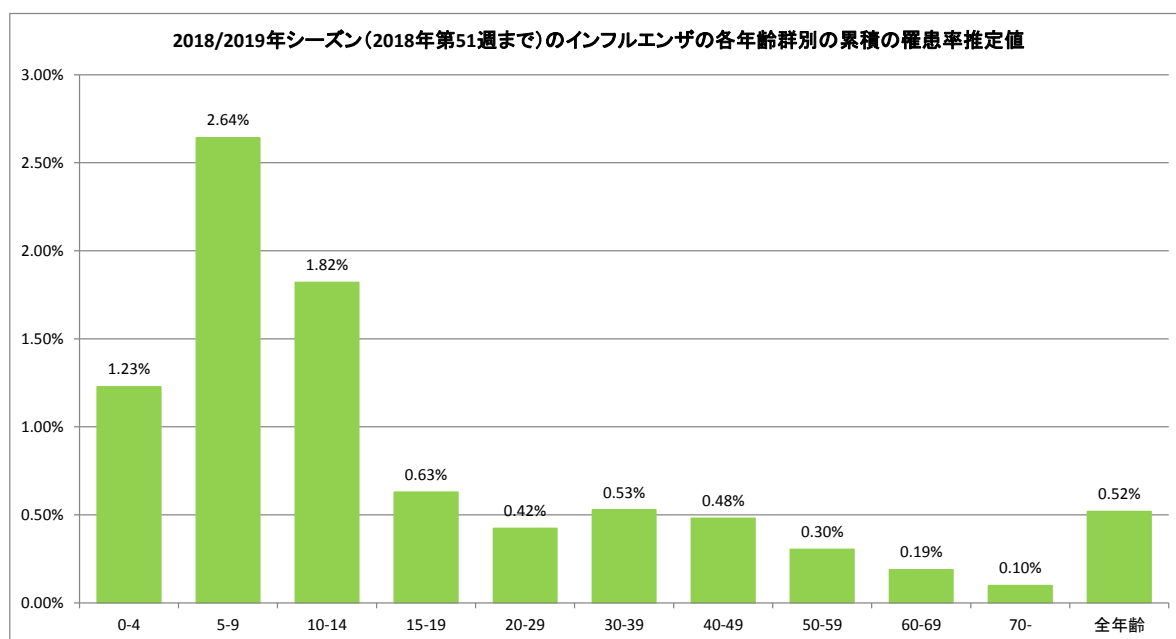


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2018年第51週、累積推定患者数=659,263)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(373検体解析)は、A/H1pdmが71.3%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型26.5%、B型2.2%の順となっています。

第51週のインフルエンザの推定患者数は約34万人と急増しました。今後第52週、2019年第1週とインフルエンザの流行は横ばい傾向となり、冬季休暇明けの第2週以降に本格的な流行時期に入っていくことが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。